



# Cisco Security Manager 4.3 UCS サーババンドル クイック スタート ガイド

初版：2012 年 11 月 30 日

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 ([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)) をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。



**注意**

Cisco Security Manager ライセンスは書面により提供され、新しいバンドルの輸送用ボックスに同梱されています。誤って廃棄または紛失することのないようご注意ください。



**注意**

新しいバンドルには、リカバリ メディア (2 枚の DVD) が付属しています。誤って廃棄または紛失することのないようご注意ください。

## 内容

[「製品説明」 \(P.2\)](#)

[「構成モード：標準のみ - HA、DR なし」 \(P.3\)](#)

- 「Cisco Security Manager を起動して実行する手順」 (P.3)
- 「BIOS のセットアップ、OS のチューニング、および Security Manager のチューニング (バンドルの出荷前にシスコが実施)」 (P.5)
- 「パフォーマンス パラメータ」 (P.6)
- 「Windows のアップデートとサービス パック」 (P.6)
- 「Security Manager のパッチとサービス パック」 (P.7)
- 「ユーザ名およびパスワード」 (P.7)
- 「Windows のライセンス認証、プロダクト キー、および EULA」 (P.7)
- 「UCS サーバの Windows ドライバ」 (P.8)
- 「UCS サーバのアップデートとサービス パック」 (P.8)
- 「Cisco Security Manager ライセンス」 (P.9)
- 「IP アドレスとホスト名」 (P.9)
- 「リカバリ メディアおよび回復手順」 (P.11)
- 「バンドルをシスコに返送する必要がある場合」 (P.12)
- 「関連資料」 (P.12)

## 製品説明

この『Cisco Security Manager 4.3 UCS サーババンドル クイック スタート ガイド』(『クイック スタート ガイド』) の印刷版が、Cisco Security Manager 4.3 UCS サーババンドルに同梱されています。この『クイック スタート ガイド』は、Cisco.com 上の [http://www.cisco.com/en/US/products/ps6498/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6498/prod_installation_guides_list.html) から入手することもできます。

Cisco Security Manager 4.3 UCS サーババンドル(「バンドル」)は、Cisco Security Manager のユーザ向けにシスコが作成した、ソフトウェアとハードウェアのバンドル製品です。このバンドルを作成するにあたって次の作業がシスコにより実施済みです。

1. サーバ (Cisco UCS C220 M3) の選択、および適切な HDD、RAM、およびその他のコンポーネントによるサーバの構成 (バンドルの出荷前にシスコが実施)。

Cisco UCS C220 M3 は 1-RU フォーム ファクタのラックマウント サーバです。次の URL でインタラクティブ モデルを確認できます。

[http://www.cisco.com/en/US/prod/collateral/ps10265/ps10493/ps12369/ucs\\_c220\\_kaon\\_model\\_pr eso.html](http://www.cisco.com/en/US/prod/collateral/ps10265/ps10493/ps12369/ucs_c220_kaon_model_pr eso.html)



**(注)** このバンドルには、2 種類のハードウェア構成が用意されています。この『クイック スタート ガイド』(およびこのガイド内で参照されるすべてのマニュアル)は、両方のハードウェア構成に適用されます。この 2 つのハードウェア設定はローエンド (16 GB RAM、4 x 500 GB HDD) およびハイエンド (24 GB RAM、7 x 500 GB HDD) です。

2. Cisco UCS サーバ上の BIOS のセットアップ (バンドルの出荷前にシスコが実施)。
3. オペレーティング システム (Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1 Enterprise、64 ビット) (「OS」) のインストール (バンドルの出荷前にシスコが実施)
4. OS のチューニング (バンドルの出荷前にシスコが実施)。

5. Common Services 4.0（インストール、ユーザ ロール定義、およびその他多数の機能のためのフレームワークを提供）のインストール（バンドルの出荷前にシスコが実施）。
6. Cisco Security Manager 4.3（「Security Manager」）のインストール（バンドルの出荷前にシスコが実施）。
7. Security Manager のチューニング（バンドルの出荷前にシスコが実施）。

以降の手順（輸送用ボックスの開梱、IP アドレスの取得、Security Manager クレデンシャルの確認、および残りすべての作業）は、(1) Security Manager の admin ユーザおよび (2) Cisco UCS サーバの管理者として行います。

この『クイック スタート ガイド』と、新しいバンドルとともに輸送用ボックスに同梱されているその他のマニュアル（特に『Cisco UCS C220 Server Quick Start Guide』ポスター、Cisco 78-20790-02）を読むことを推奨します。

また、『クイック スタート ガイド』の「関連資料」も参照してください。

この製品に関する次の情報に注意してください。

- 以前の Cisco 製品、Cisco Security Manager UCS サーババンドルでは、Cisco Security Manager 4.1 と Cisco UCS C210 M2 サーバが使用されていました。
  - Security Manager 4.1 データベースは 4.3 にアップグレードできます。
  - ただし、2 つのバンドルが 2 種類のハードウェア プラットフォームを使用するため、Security Manager UCS バンドルはアップグレードできません。
- SAN ストレージは、この製品でサポートされません。また、NAS もこの製品ではサポートされません。

## 構成モード：標準のみ—HA、DR なし

バンドルは標準の展開のみを対象としています。これは、ハイ アベイラビリティ (HA) モードもディザスタ リカバリ (DR) モードもサポートしていません。これらのモードでは、バンドルに付属していない Veritas のインストールが必要です。

## Cisco Security Manager を起動して実行する手順

- ステップ 1** 次の URL にあるマニュアル『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco UCS C-Series Servers*』を入手して読みます。  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/unified\\_computing/ucs/c/regulatory/compliance/cseries\\_regulatory\\_compliance\\_information.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/c/regulatory/compliance/cseries_regulatory_compliance_information.html)
- ステップ 2** 輸送用ボックスに同梱されている『Cisco UCS C220 Server Quick Start Guide』（ポスター、Cisco 78-20790-02）を見つけます。
- ステップ 3** 輸送用ボックスに次のものが入っていることを確認します。
  - a. サーバ本体
  - b. ドライバとユーティリティのディスク
  - c. AC 電源コード（オプション、最大 2 本）
  - d. KVM コンソール ケーブル

- e. バンドル アクセサリ キット
- ステップ 4** 輸送用ボックス内のバンドル アクセサリ キットに次のものが入っていることを確認します。
- この『クイック スタート ガイド』（対応するバージョン）
  - 書面による Cisco Security Manager ライセンス
  - 書面によるエンドユーザ ライセンス契約書
  - リカバリ メディア（2 枚の DVD）
  - Microsoft Certificate of Authenticity（COA）ラベル（COA ラベルはリカバリ メディアに貼られています）。
- ステップ 5** 『Cisco UCS C220 Server Quick Start Guide』ポスターを使用して、サーバをラックに設置します。
- ステップ 6** 『Cisco UCS C220 Server Quick Start Guide』ポスターを使用して、サーバをスタンドアロン モードで接続し、電源をオンにします。
- ステップ 7** UCSM モードは使用しません。
- ステップ 8** BIOS は更新しません。BIOS セットアップは、バンドルの出荷前にシスコにより実施済みです。[「BIOS のセットアップ、OS のチューニング、および Security Manager のチューニング（バンドルの出荷前にシスコが実施）」（P.5）](#)を参照してください。
- ステップ 9** CIMC ファームウェアは更新しません。
- ステップ 10** デフォルトのユーザ名とパスワードを使用して、OS にログインします。[「ユーザ名およびパスワード」（P.7）](#)を参照してください。
- ステップ 11** Windows のライセンス認証を行います。詳細については、[「Windows のライセンス認証、プロダクト キー、および EULA」（P.7）](#)を参照してください。
- ステップ 12** スタティック IP アドレスをサーバに割り当てます。[「IP アドレスの割り当て」（P.9）](#)を参照してください。
- ステップ 13**（任意）ホスト名を変更します。[「ホスト名の変更」（P.10）](#)を参照してください。
- ステップ 14** 必要なポートを有効にし、サーバ上の Security Manager とその関連アプリケーションから使用できる状態にします。これにより、関連アプリケーションを実行しているクライアントやサーバと通信できるようになります。詳細については、[http://www.cisco.com/en/US/docs/security/security\\_management/cisco\\_security\\_manager/security\\_manager/4.3/installation/guide/requirem.html#wp1060450](http://www.cisco.com/en/US/docs/security/security_management/cisco_security_manager/security_manager/4.3/installation/guide/requirem.html#wp1060450)にある『*Installation Guide for Cisco Security Manager 4.3*』の「Requirements and Dependencies」の章の「Required Services and Ports」を参照してください。
- ステップ 15** デフォルトのユーザ名とパスワードを使用して、Cisco Security Manager にログインします。[「ユーザ名およびパスワード」（P.7）](#)を参照してください。
- ステップ 16** Cisco Security Manager ライセンスをインストールします。[http://www.cisco.com/en/US/docs/security/security\\_management/cisco\\_security\\_manager/security\\_manager/4.3/installation/guide/inserver.html#wp1053144](http://www.cisco.com/en/US/docs/security/security_management/cisco_security_manager/security_manager/4.3/installation/guide/inserver.html#wp1053144)にある『*Installation Guide for Cisco Security Manager 4.3*』の「Installing and Upgrading Server Applications」の章の「Updating Security Manager」を参照してください。

**注意**

Cisco Security Manager ライセンスは書面により提供され、新しいバンドルの輸送用ボックスに同梱されています。誤って廃棄または紛失することのないようご注意ください。

- ステップ 17** 必要に応じて、この『クイック スタート ガイド』の[関連資料](#)を参照してください。

# BIOS のセットアップ、OS のチューニング、および Security Manager のチューニング (バンドルの出荷前にシスコが実施)

シスコは、新しいバンドルを出荷する前に、サーバ上の BIOS のセットアップ、オペレーティング システムのインストールとチューニング、および Security Manager のインストールとチューニングを行っています。

Cisco UCS サーバで行われる BIOS 設定は次のとおりです (バンドルの出荷前にシスコが実施)。

- Intel Hyper-Threading Technology を有効化。
- 仮想化を有効化。
- 大容量記憶域コントローラ設定を選択。

RAID 設定は次のとおりです (バンドルの出荷前にシスコが実施)。

- ハードウェア RAID コントローラが、RAID 5 で設定済み。

Cisco UCS サーバで行われる OS のチューニングと変更は次のとおりです (バンドルの出荷前にシスコが実施)。

- ディスク キャッシュ ポリシーを設定。
- 仮想メモリを設定。
- Windows ファイアウォールを無効化。
- 最新の Windows アップデートをインストール。
- Windows Update の設定を [Check for updates but let me choose whether to download and install them] に設定。

**ヒント** Windows ファイアウォールは、デフォルトで無効になっています。Windows ファイアウォールを有効にする場合は、次の手順を実行してください。

- a. Server Manager を開きます。(Server Manager を開くには、[Computer] を右クリックし、[Manage] をクリックします。あるいは、[Start] > [Programs] > [Administrative Tools] > [Server Manager] を選択します)。
- b. [Security Information] の下で、[Go to Windows Firewall] をクリックします。
- c. [Overview] の下で、[Windows Firewall Properties] をクリックします。
- d. [State] の下で、[Firewall State] を [On] に変更します。



(注)

Windows ファイアウォールをイネーブルにすると、Security Manager の必要なすべての着信ポートがデフォルトでブロックされます。サーバが関連アプリケーションを実行しているクライアントやサーバと通信できるようにするには、必要なポートがイネーブルで、サーバ上の Security Manager とその関連アプリケーションから使用できることを保証する必要があります。Windows ファイアウォールでイネーブルにする必要があるポートのリストを表示するには、[http://www.cisco.com/en/US/docs/security/security\\_management/cisco\\_security\\_manager/security\\_ma](http://www.cisco.com/en/US/docs/security/security_management/cisco_security_manager/security_ma)

[nager/4.3/installation/guide/requirem.html#wp1060450](https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/security/cisco-sm/4.3/installation/guide/requirem.html#wp1060450) にある『*Installation Guide for Cisco Security Manager 4.3*』の「Requirements and Dependencies」の章の「Required Services and Ports」を参照してください。

行われる Cisco Security Manager のチューニングは次のとおりです (バンドルの出荷前にシスコが実施)。

- D:\Program Files\CSCOpX をインストールに使用。
- デフォルトのユーザ名とパスワードを作成。

## パフォーマンス パラメータ

新しいバンドルは、特定のパフォーマンス パラメータ用にチューニングされています。

ローエンド ハードウェア構成 (16 GB RAM、4 x 500 GB HDD) は、50 のデバイスをサポートします。この構成は、小規模な企業での導入に適しています。サポートされる 1 秒あたりの最大イベント数 (累積) は毎秒 5000 イベントです (この値の Syslog と IPS SDEE の比率は 9:1 です (4500 Syslog + 500 SDEE))。



(注)

(1) ライセンスまたはハードウェアを追加してローエンド ハードウェア構成 (16 GB RAM、4 x 500 GB HDD) の機能を拡張しようとする、あるいは (2) 別な方法でライセンス設定とハードウェアの一方または両方を変更しようとするは推奨されません。このバンドルに対するテストは出荷時の状態で行われています。

ハイエンド ハードウェア構成 (24 GB RAM、7 x 500 GB HDD) は、150 のデバイスをサポートします。この構成は、中規模な企業での導入に適しています。サポートされる 1 秒あたりの最大イベント数 (累積) は毎秒 10,000 イベントです (この値の Syslog と IPS SDEE の比率は 9:1 です (9000 Syslog + 1000 SDEE))。



(注)

(1) ライセンスまたはハードウェアを追加してハイエンド ハードウェア構成 (24 GB RAM、7 x 500 GB HDD) の機能を拡張しようとする、あるいは (2) 別な方法でライセンス設定とハードウェアの一方または両方を変更しようとするは推奨されません。このバンドルに対するテストは出荷時の状態で行われています。

## Windows のアップデートとサービス パック

新しいバンドルは、その時点での Windows アップデートがインストールされた状態で出荷されています。

また、Windows Update は、[Check for updates but let me choose whether to download and install them] に設定されています。



ヒント

Windows Update の設定を変更するには、[Control Panel] > [System and Security] > [Windows Update] > [Let me Choose My Settings] を選択します。

このバンドルの一部を構成している Cisco UCS サーバの管理者として、Windows の必要なアップデートとサービス パックを管理する必要があります。シスコから Windows のアップデートやサービス パックが提供されることはありません。

## Security Manager のパッチとサービス パック

新しいバンドルは、その時点での Cisco Security Manager のパッチとサービス パックがインストールされた状態で出荷されています。



(注)

Security Manager 4.3 の Service Pack 1 は新しいバンドルにプリインストールされています。

このバンドルにインストールされている Security Manager の admin ユーザとして、Security Manager の必要なパッチとサービス パックを管理する必要があります。シスコは、それらのインストールを代行することも、通知することもありません。

シスコと有効なサービス契約を結んでいる場合は、Cisco Security Manager ソフトウェアをバージョン 4.3 からそれ以降のバージョンにアップグレードできます。

## ユーザ名およびパスワード

Windows の場合：

- デフォルトの Windows ユーザ名/パスワード：Administrator/cisco@123
- Windows ユーザ名/パスワードの変更方法：Windows Server 2008 向けに Microsoft が公開している手順に従います。

Security Manager の admin の場合

- デフォルトの Security Manager の admin ユーザ名/パスワード：admin/cisco@123
- Security Manager の admin ユーザ名/パスワードの変更方法：Security Manager で、[Tools] > [Security Manager Administration] > [Server Security] を選択し、[Local User Setup] をクリックします。

Security Manager の casuser の場合

- デフォルトの casuser ユーザ名/パスワード：casuser/ ((注) パスワードはインストール時に Security Manager によって生成されます)
- casuser パスワードをリセットするには、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6498/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6498/prod_installation_guides_list.html) にある『Installation Guide for Cisco Security Manager 4.3』に記載された **resetCasuser.exe** の手順に従います。

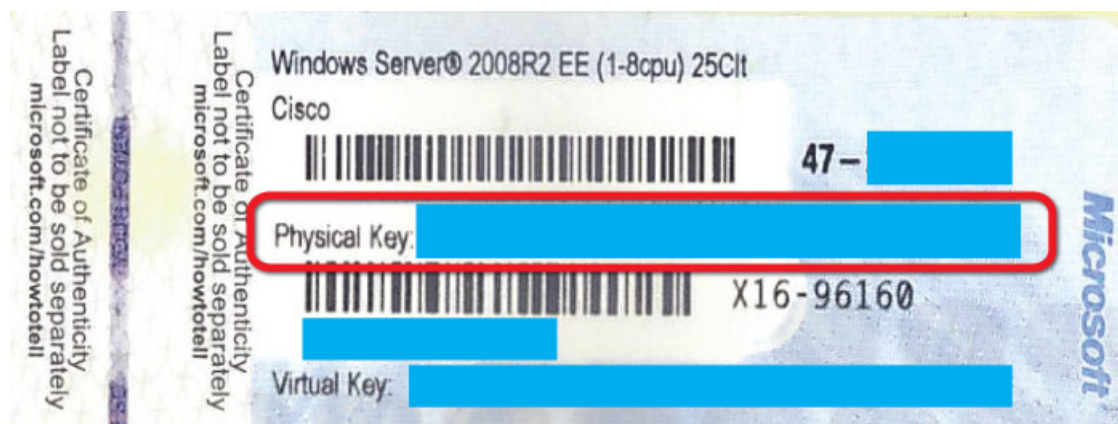
## Windows のライセンス認証、プロダクト キー、および EULA

ライセンス認証期間の期限が切れる前に、OS (Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1 Enterprise、64 ビット) のライセンス認証を行う必要があります。OS のライセンス認証を行うには、Microsoft Certificate of Authenticity (COA) ラベルを使用します。COA ラベルは、新しいバンドルに付属して

いるリカバリ メディアに貼られています。OS のライセンス認証の詳細については、Microsoft が <http://www.microsoft.com/windowsserver2008/en/us/product-activation.aspx> に公開している『Product Activation』を参照してください。

プロダクト キーは、通常の Microsoft の手順を使用して表示できます。[Control Panel] で、[System] を選択し、[Windows Activation] の下の情報を確認します。

OS のライセンス認証を行うには、Physical Key を使用します。Virtual Key は使用しません。次の図を参照してください。



Windows EULA（エンド ユーザ ライセンス契約書）は、輸送用ボックスに同梱されている印刷文書に記述されています。

## UCS サーバの Windows ドライバ

必要な Windows UCS ドライバは新しいバンドルにプリインストールされています。

必要に応じて、次の URL でこれらのドライバをダウンロードできます。

<http://www.cisco.com/cisco/software/type.html?mdfid=284296253&i=rs>

## UCS サーバのアップデートとサービス パック

シスコから、UCS サーバのアップデートとサービス パックが定期的にリリースされています。このバンドルの一部を構成している Cisco UCS サーバの管理者として、必要なアップデートとサービス パックを管理する必要があります。これらは、<http://www.cisco.com/go/ucs> にアクセスして入手できます。ダイレクト URL である次のハイパーリンクも使用できます。

- Cisco UCS C220 M3 ラック サーバ ソフトウェア : <http://www.cisco.com/cisco/software/type.html?mdfid=284296253&i=rs>



# Cisco Security Manager ライセンス



**注意**

Cisco Security Manager ライセンスは書面により提供され、新しいバンドルの輸送用ボックスに同梱されています。誤って廃棄または紛失することのないようご注意ください。

このバンドルには、次のライセンス サポートが含まれています。

- ローエンド ハードウェア構成 (16 GB RAM、4 x 500 GB HDD) は、50 のデバイスをサポートします。



**(注)**

(1) ライセンスを追加してローエンド ハードウェア構成 (16 GB RAM、4 x 500 GB HDD) の機能を拡張しようとする、あるいは (2) 別な方法でライセンス設定を変更しようとするは推奨されません。このバンドルに対するテストは出荷時の状態で行われています。

- ハイエンド ハードウェア構成 (24 GB RAM、7 x 500 GB HDD) は、150 のデバイスをサポートします。



**(注)**

(1) ライセンスを追加してハイエンド ハードウェア構成 (24 GB RAM、7 x 500 GB HDD) の機能を拡張しようとする、あるいは (2) 別な方法でライセンス設定を変更しようとするは推奨されません。このバンドルに対するテストは出荷時の状態で行われています。



**(注)**

このバンドルでは、評価ライセンスを使用できません。

## IP アドレスとホスト名

### IP アドレスの割り当て

新しいバンドルをサイトに導入する際、サーバにスタティック IP アドレスを割り当てる必要があります。(Security Manager は IP アドレスが 1 つ必要です。スタティック IP アドレスを使用する必要があります。ダイナミック IP アドレスはサポートされていません)。

サーバにスタティック IP アドレスを割り当てるには、最初にネットワーク管理者からスタティック IP アドレスを入手し、その後に Microsoft が Windows Server 2008 向けに公開している IP アドレスの割り当て手順に従います。

### IP アドレスの変更

サーバの IP アドレスを変更するには、初めて IP アドレスを割り当てたときと同様に、Microsoft が Windows Server 2008 向けに公開している IP アドレスの割り当て手順に従います。

サーバの IP アドレスを変更した後、コマンド ウィンドウで次のコマンドを実行して、Security Manager Daemon Manager を再起動する必要があります。

```
net stop crmdmgtd
```

```
net start crmdmgt
```

## ホスト名の変更

ローエンド ハードウェア構成（16 GB RAM、4 x 500 GB HDD）用のデフォルトのホスト名は CSM4-UCS2-50HW です。ハイエンド ハードウェア構成（24 GB RAM、7 x 500 GB HDD）用のデフォルトのホスト名は CSM4-UCS2-150HW です。



新しいバンドルのホスト名を変更するには、次の手順を実行します。



### 注意

マシンのホスト名が変化すると、システムの安定性が損なわれる可能性があります。場合によってはシステムに障害が発生します。

### 手順

- 
- ステップ 1** OS でホスト名を変更します。
- [Computer] を右クリックし、[Properties] を選択します。あるいは、[Control Panel] を開き、[System] を選択します。
  - [Computer name, domain, and workgroup settings] の下で、[Change settings] をクリックします。
  - [Change] をクリックして、ホスト名を変更します。
  - コンピュータを再起動します。
- ステップ 2** コマンド ウィンドウで次のコマンドを実行して、Security Manager Daemon Manager を停止します。
- ```
net stop crmdmgt
```
- ステップ 3** コマンド ウィンドウで次のコマンドを実行して、CiscoWorks サーバ ホスト名変更スクリプトを実行します。
- ```
NMSROOT\bin\perl NMSROOT\bin\hostnamechange.pl
```
- このコマンド内の *NMSROOT* は、Security Manager のインストール ディレクトリへのパスです。デフォルトのインストール ディレクトリは D:\Program Files\CSCOpX です。
- 
-  **ヒント** `hostnamechange.pl` は、OS でホスト名が変更された後、Common Services に関連したディレクトリ、ファイル、データベース エントリ、およびレジストリ エントリにホスト名の変更を反映するユーティリティです。
- 
- ステップ 4** コンピュータを再起動します。
- 
-  **(注)** このステップでは、コンピュータを再起動する必要があります。Security Manager Daemon Manager の再起動では不十分です。
-

# リカバリ メディアおよび回復手順



**注意**

新しいバンドルには、リカバリ メディア (2 枚の DVD) が付属しています。誤って廃棄または紛失することのないようご注意ください。



**(注)**

リカバリ パーティションは存在しません。



**注意**

次の手順の目的は、Windows と Cisco Security Manager を最初からインストールすることです。Windows をインストールすると、サーバの Windows (C:\) パーティションに存在するすべての既存の Windows ファイルとデータが削除されます。Security Manager (D:\) パーティション内に存在するファイルは削除されません。必要に応じて、サーバ上のファイルをバックアップし、続行する前に別のサーバに Security Manager データベースのバックアップを保存するようにします。

ディスクの破損やその他のハードウェア障害が発生した場合、新しいバンドルに付属しているリカバリメディアを使用して、OS と Security Manager を復元できます。次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1** ラップトップまたはその他の PC から、Internet Explorer を使用して UCS サーバの CIMC にログインします。
- `https://<CIMC_IPAddress>/`
- CIMC の IP アドレスを設定するための UCS のマニュアルを参照してください。  
[http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10493/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10493/prod_installation_guides_list.html)
- ステップ 2** CIMC Web UI から KVM コンソールを起動します。
- ステップ 3** ラップトップまたは他の PC の DVD ドライブに Windows のリカバリ メディアを挿入します。
- ステップ 4** KVM コンソールから仮想メディアとして DVD ドライブをマウントまたはマッピングします。
- ステップ 5** EFI シェルに UCS サーバをブートします。
- ステップ 6** EFI シェルから Windows のインストールを開始するための次のコマンドを実行します。
- ```
fs1:\EFI\BOOT\BOOTX64.EFI
```
- ステップ 7** インストールの最後に、Windows 管理者パスワードを入力します。
- ステップ 8** チップセットおよびネットワーク デバイスの UCS C220 M3 Windows 2K8R2 x64 ドライバをダウンロードしてインストールします。
- Windows ドライバをインストールするための UCS のマニュアルを参照してください。  
[http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10493/products\\_user\\_guide\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps10493/products_user_guide_list.html)
- ステップ 9** Windows ファイアウォールをオフにします。
- ステップ 10** Windows の自動更新オプションを [Check for updates but let me choose whether to download and install them] に設定します。
- ステップ 11** NIC のスタティック IPv4 IP アドレスを設定し、必要に応じて RDP をイネーブルにします。
- ステップ 12** C: のカスタム仮想メモリを次のように設定します。

- インストール済み RAM が 16 GB の場合、初期値を 16384 MB に、最大値を 24576 MB に設定します。
- インストール済み RAM が 24 GB の場合、初期値を 24576 MB に、最大値を 36864 MB に設定します。

**ステップ 13** 製品に付属の物理キーを使用して Windows をアクティブ化します。

**ステップ 14** 次のパスのサーバ上に Security Manager 4.3 サーバ アプリケーションをインストールします。

D:\Program Files\CSCOpX

- a.** Security Manager をインストールするための Security Manager インストールガイドを参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6498/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6498/prod_installation_guides_list.html)

- b.** 24 GB の RAM を持つサーバ上に Security Manager をインストールした場合は、Windows 管理者としてログインし、次に示すコマンドを実行して、Security Manager のインストールを開始する前に D:\ に一時ファイルを作成します。

```
fsutil file createnew D:\file-to-delete 536870912000
```

- c.** Security Manager のインストールが完了したら一時ファイルを削除します。

```
del D:\file-to-delete
```

**ステップ 15** Cisco Security Manager 4.3 の最新のサービス パックをダウンロードしてインストールします。

**ステップ 16** 次に示すように、Security Manager クライアントからイベント ストア サイズを更新します。

- a.** [Configuration Manager] > [Tools] > [Security Manager Administration] > [Event Management] に移動します。
- b.** インストール済み RAM が 16 GB の場合、[Event data store disk size] を 1000 に設定します。
- c.** インストール済み RAM が 24 GB の場合、[Event data store disk size] を 2000 に設定します。

**ステップ 17** 以前に作成した Security Manager データベース バックアップをダウンロードして復元します（この手順の前の注意を参照してください）。これにより Security Manager ライセンスが復元されます。

## バンドルをシスコに返送する必要がある場合

ハードウェアの障害や、RMA を要求しなければならない他の何らかの理由により、バンドルをシスコに返送する必要がある場合は、次の点に注意してください。

- バンドルをシスコに返送する際は、出荷されたものすべてを含める必要があります。特に、リカバリ メディアは必ず返送してください。リカバリ メディアには、返却が必要な Microsoft Certificate of Authenticity (COA) ラベルが貼られています。

## 関連資料

次の資料は、このバンドル内のソフトウェア（Cisco Security Manager 4.3）に関するものです。

- 『Guide to User Documentation for Cisco Security Manager 4.3』（「ドキュメント ロードマップ」）：  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/security/security\\_management/cisco\\_security\\_manager/security\\_manager/4.3/roadmap/CSM43Map.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/security/security_management/cisco_security_manager/security_manager/4.3/roadmap/CSM43Map.html)
- Cisco.com にある Cisco Security Manager のメイン ページ：<http://www.cisco.com/go/csmanager>

- 『*User Guide for Cisco Security Manager 4.3*』の第1章（「Getting Started」）：  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/security/security\\_management/cisco\\_security\\_manager/security\\_manager/4.3/user/guide/wfplan.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/security/security_management/cisco_security_manager/security_manager/4.3/user/guide/wfplan.html)

次の資料は、このバンドル内のハードウェア（Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバ）に関するものです。

- 新しいバンドルと一緒に輸送用ボックスに同梱されている『Cisco UCS C220 Server Quick Start Guide』（ポスター、Cisco 78-20790-02）
- 『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』（Cisco Unified Computing System (UCS) ラック マウント サーバに利用可能なユーザ マニュアルの説明）：  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/unified\\_computing/ucs/overview/guide/UCS\\_rack\\_roadmap.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/overview/guide/UCS_rack_roadmap.html)
- Cisco.com にある『Unified Computing and Servers』のメイン ページ：  
<http://www.cisco.com/go/ucs>

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報については、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>